

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472200375	事業の開始年月日	平成12月3月1日	
		指定年月日	平成12月3月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ湘南台			
所在地	( 252-0805 )			
	神奈川県藤沢市円行1-9-13			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年12月1日	評価結果 市町村受理日	平成23年1月14日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人おひとりの個性を大切に、その人らしい生活が出来るようお手伝いいたします。笑いがあふれ安心してくつろげるそんなホームです。  
医療連携も導入し、医療面の充実化を図りました。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年12月17日	評価機関 評価決定日	平成22年1月6日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

＜事業所の優れている点＞  
 ◇法人の理念と平成22年度のスローガンを事業所内に掲示し、「地域に根ざした施設づくり、利用者・家族が安心できる環境づくり」を運営方針としている。  
 ◇平成22年12月に医療連携体制加算を取得し、提携先の医療機関からは医師が隔週で往診、看護師が毎週訪問する他、緊急時対応の医療機関とも提携している。また、歯科医が毎週往診するなど医療体制には万全を期している。  
 ◇毎月行うケアカンファレンスでは、医師の指示と家族の要望、モニタリングの結果、利用者本人の意見（カンファレンスに参加）をもとに介護計画を立案し、通常は6か月、状況により3か月ごとに見直している。  
 ◇自治会などの地域や行政、家族との連携を密にし、運営やサービスの更なる質の向上に努めている。平成22年度からは認知症サポーター養成講座を開始し5月と9月、11月に開講した。藤沢市のいきいきパートナー(ボランティア)の受け入れを申請している。  
 ◇職員は身体拘束をしないケアについて常に意識しており、職員会議で話題にしてサービスに反映するよう努めている。  
 ＜事業所の工夫点＞  
 ◇排泄チェック表により個人別に時間を決めてトイレ誘導を行うなど、職員の努力の結果、4名の利用者がリハビリパンツから布パンツの着用に変更し、利用者の表情が明るくなる効果が出ている。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ湘南台
ユニット名	ふじの家・ゆりの家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

ミモザ湘南台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・事業所の理念を掲示しスタッフ会議などで確認し合い意識づけをしている。	・法人の理念と平成22年度のスローガンを玄関、スタッフルームに掲示している。 ・運営方針である「地域に根ざした施設作り、利用者・家族が安心できる環境作り」の実践に向けて、スタッフ会議で検討、確認し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の夏祭りや防災訓練に参加している。散歩に出た際は地域の方々と挨拶し合っている。六会中学校の職場体験を受け入れている。藤沢市いきいきパートナーの申請もしている。	・自治会に加入している。夏祭りに参加し、神輿や山車が事業所前を練り歩き、利用者が楽しんでい。また、スーパーへ買い物に出かけて、利用者は地域住民と生活を共にしている。 ・フラメンコ、日本舞踊などのボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3ヶ月に1回認知症サポーター養成講座を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・家族代表・介護保険課・老人会会長・地区社協の方などを招き意見交換をしている。意見等は施設運営に活かされている。	・自治会長、老人会会長、民生委員、介護相談員、家族代表、行政（藤沢市役所職員、地域包括支援センター職員）をメンバーとし、本年1月、12月に開催した。 ・医療との連携や認知症の理解の大切さについて意見交換をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GH連絡会で担当者と交流できる場がある。月に1回介護相談員を受け入れ、意見を聞いている。	・藤沢市役所職員と日常的に連携し、また、グループホーム連絡会で市役所職員と情報を交換している。 ・認知症サポーター養成講座を5月と、9月、11月に開催した。 ・藤沢市派遣の介護相談員2名を受け入れている。	

ミモザ湘南台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する研修を行ない職員間での意識の徹底をしている。 玄関を出るとすぐ道路になっており交通量も多いことから施錠している。	・職員は身体拘束禁止について法人の内部研修を受け、また、職員会議で具体例について話し合っている。 ・玄関、各フロア内は何れも開錠している。各フロア出口は安全確保のために施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場研修を通じ職員に理解してもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	書物などで知識を得、ご家族から相談があった場合対応している。 研修に参加し制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分に説明し理解していただいている。また随時質問を受けている。解約の際も十分に理解を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や毎月の生活状況の返信により、家族の意見を伺っている。 半年に1回家族会を開催している。	・家族会(年2回開催)や行事、毎月の手紙への返信、家族の訪問などを通じて、意見や希望を把握し運営に反映している。レクリエーションや散歩などを動かす支援への希望が多い。 ・意見や希望は、各フロアの連絡ノートに記録しスタッフ会議で検討している。	

ミモザ湘南台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて職員の意見や提案をする場を作っている。日頃からスタッフ達とコミュニケーションをとるよう心がけている。	・日常会話やスタッフ会議で意見を聞き、可能なものは取り入れている。投薬内容が変更されたときの医師への再確認、職員の休暇を考慮したシフト編成など、職員とは運営上必要なコミュニケーションを常にとっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人ひとりと面談を行い意見や提案を聞き、それを反映させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社で実施の研修や外部の研修に参加できるよう情報を提供している。エルダー社員制度があり、新入職員にOJTを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会にて他施設の管理者や職員と交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に自宅を訪問し、本人のモニタリングをし、より多くの情報を得よう努めている。		

ミモザ湘南台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に出来る限りご家族に同席していただき、モニタリングを行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番の困り事、施設として出来る事を把握し、他のサービスに関しての説明も行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行なったり、困ったことは一緒に考え解決できるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	解決できないことなどは家族に相談し協力いただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・親戚・友人の面会は自由にしていただき、外出もお願いしている。 かかりつけ医も出来るだけ継続していただいている。	・友人や知人が毎月訪れている。また、家族や親戚が訪れ、連れだって外出を楽しむなど、これまでの人的関係の継続の支援に努めている。	

ミモザ湘南台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事等は利用者の得意不得意を活かし分担して行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のお見舞いに行ったり退居後の行き先の相談・支援をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	カンファレンスの時、出来るだけ本人に参加してもらっている。困難な場合には常時本人の思いを聞くよう努めている。	・日常の会話、表情、仕草、声の調子を通じて本人の思いや意向を把握し、また、家族の意見を大切にしている。 ・大事な点は個人記録に記載して職員間で情報を共有し、ケアカンファレンスで検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前に家族や本人から十分なモニタリングをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日お一人おひとりの状態の変化などを細かく観察し、それを記録しアセスメントしている。		

ミモザ湘南台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には普段のコミュニケーションの中で希望を聞き、家族には面会時等に相談している。月1回以上のカンファレンスにてケアプランを見直し、再作成している。	・医師の指示、家族や本人の意見、モニタリング結果をもとに、毎月ケアカンファレンスを開催して、介護内容を検討している。可能な場合は利用者が参加している。 ・介護計画は6か月、状況により3か月毎に、見直して家族の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに即したチェックシートを作成しケアプランの妥当性を見ている。また日々の暮らしでの気づきは個人記録に記入し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々状況が変わったりするので、その状況に合わせた対応が出来るよう職員間で緊急にミーティングを行なう事もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる音楽会や書道教室、介護相談員などの来訪により利用者の心を動かす事を目標にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続される方は出来るだけして頂き、連携医療機関の往診にて適切な医療が受けられる在宅支援診療所をスタートするにあたり、ご家族へ説明し同意の上、適切な医療が受けられるようになった。	・希望によりかかりつけ医への受診を継続してもらっている。 ・あくわクリニック横浜と提携し、隔週の医師の往診、毎週看護師の訪問を受けている。緊急時対応として湘南第一病院、村田会内科クリニックと提携している。ハローデンタルクリニックが毎週往診している。	



ミモザ湘南台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に一度訪れる提携医療機関の看護師に相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医師や看護師と連携を取りご家族にお話しをされる時は同席させていただき退院時のことを相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	在宅支援診療所スタートによりご家族には十分に説明を行なった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年12月、医療連携体制加算を取得した。重度化した場合の対応指針、提携医療機関や医療体制の変更を家族に説明して了解を得ている。</li> <li>重度化した場合は、医師の判断、家族の意思を把握し連携を密にし方針を共有して対応している。</li> </ul>	医療連携体制の開始に伴い、ターミナルを視野に入れた介護体制が必要になります。職員のターミナルケアに関する研修を進め、実務やメンタル面の準備を進めることが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作り口頭にて伝え、職員一人ひとり把握できるように徹底する。また症状よっての対応を職場研修にて学ぶ機会をつくる。救命講習を全員で受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回行ない消防署への通報や利用者の避難誘導等を行なっている。地域の防災訓練に参加し災害時の協力を依頼している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年11月に利用者全員が参加して、避難訓練を行った。12月末に夜間の災害を想定した通報訓練を予定している。</li> <li>3日分の非常食(即席食糧、飲料水)を用意している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周りの利用者に聞こえるような大きな声で声かけしたり、トイレに誘ったりしないようにしている。 本人の個室に入る時は必ず声をかけている。	・設置法人は新人教育として、担当の現任職員を30日間新人職員に張り付けるエルダー教育システムを取っており、利用者への声掛けなど、対応の仕方に対して徹底した教育を実施して、介護に当たっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で希望を伺ったり選択肢を提示し本人に選んでもらっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	することが決められていない利用者には職員がさりげなく促し、したいことがある利用者には本人のペースにて行なってもらっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んでもらったり鏡の前で身だしなみを整えてもらったりすることを支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食ではメニューを選んでいただいたり買い物で好きなものを選んでもらったりしている。また、普段の食事準備は盛り付け、配膳、食器洗いなど得意なものを行なっている。	・業者による調理済みの料理を搬入するケースと、業者の献立に従い食材配達を受けて職員が調理をするケースを一日おきに切り替え、食事のマンネリ化を防いでいる。 ・利用者が、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いに参加している。		

ミモザ湘南台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定や健康管理を行ない個々にあった食事を提供している。また、水分摂取の難しい方にはお好きな飲み物等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回の口腔ケアに加え年1回の歯科検診を行なっている。必要な利用者には週1回往診にきていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のリズムを把握しトイレで自立して排泄できるよう目指している。デイパント使用の利用者で失禁が少ない方は布パンツに変えたりしている。	・一人ひとりの排泄パターンを把握して利用者のサインを共有し、日中はリハビリパンツを布パンツに変え、職員全員で支援に努めている。 ・布パンツに変更した利用者は、生き生きとした表情になり、状態が良くなる効果が出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維やヨーグルトなどで便秘を予防したり体操・運動に努めている。また、本人の排泄のリズムをつかむようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者に回数等意見を聞きながら行なう。入る時間帯も希望に沿うよう努めている。		

ミモザ湘南台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝が日課だったり夜遅くまで起きている生活習慣があった方には、なるべく即した形で休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師と連携を取り薬の内容の把握に努めている。また、薬が変わった場合や複数の病院薬が出ている場合にも医師・薬剤師の指導のもと観察をし、職員間でも情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食堂で働いていた方には台所仕事をお願いしている。 他利用者との交流が難しい方には職員と個別外出をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外で食事がしたいという方にはご家族に協力していただいて外出に行ったりしている。 外出が好きな方には時間をかけた散歩で気分転換している。	・天気が良ければ、週2～3回の散歩や外気浴をしている。 ・春には桜の丘の千本桜、秋には大庭城址の奥まで車で入り紅葉を楽しむなど、季節を感じ、自然や草花を鑑賞している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布がないことで逆に不安になってしまう方もいるので可能な限り財布やお金を持っていていただいている。		

ミモザ湘南台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する方には電話をかけることを支援している。携帯を持って自由にかけている方もいる。 手紙は来ることはあるが送ることはしていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に努め居間には行事の写真や季節の飾りを飾っている。	・広いリビングの南東向きのガラス戸は、日当たりが良く夕方まで明るい。 ・テレビの前のゆったりした大きなソファや、数人ずつ座れるテーブルは、利用者の状態をみて、時々配置換えを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしている利用者には必要に応じて職員が声をかけたり仲良しの方とは一緒に過ごせる環境づくりをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は自宅で使用していたものを持ってきていただき配置もなるべく自宅と似るようにしている。	・クローゼットは備え付けであるが、利用者は馴染みの物や仏壇などを持ち込み、壁にお気に入りの写真を掲げている。 ・毎朝、利用者と職員が協働で電気掃除機、モップ掛けを行い、居室を清潔に保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分からない場所や行動への案内はするが、それ以外は出来るだけ本人のペースに合わせて行なっている。		

# 目標達成計画

事業所名

ミモザ湘南台

作成日

平成23年1月7日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	平成22年12月より医療連携体制をスタートした。既にターミナルケアが必要とされうご利用者もおられるため、職員全員のターミナル受け入れ体制を整える必要がある。	ターミナルケアには、チームワークが不可欠になると思われる。そのスキルを全員が身につけることが一番の目標である。	12月にはリスク管理研修を行った。今月は、ターミナルケア研修を実施する。随時必要な研修を実施していく。	ターミナルケアは、人によって違ってくると思われるので、常に研修を重ねていく必要がある。
2	13	災害対策として、備品を備えているが、充分とはいえない。	いろいろの局面を想定して、備品を備える必要性がある。	雨の日は、防水となるビニールシートが必要になるため、防災用備品の中に入れておく。又防災頭巾もご利用者分備えておく。	1か月以内に再度、備品を点検する。
3					
4					
5					